

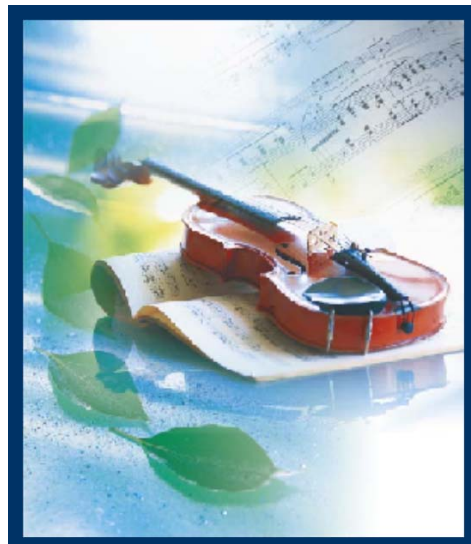
ハートフォードの アダージオV3 STB

ハートフォード生命保険株式会社の変額個人年金保険Ⅱ型2003
特別加算金付最低保証年金特約1510型

<15年運用コース>

特別勘定の月次運用レポート 2012年4月末現在

- 市場概況
- 特別勘定の運用状況
- 組入投資信託の運用レポート



変額個人年金保険のリスクと手数料について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

- 変額個人年金保険は預金等ではなく、預金保険制度ならびに投資者保護基金の対象ではありません。
 - 解約、一部解約(特別払戻を除く)をした場合や年金受取開始日以降に年金を一括受取する場合等には、一時払保険料相当額の最低保証はありませんので、受取総額が一時払保険料相当額を下回ること(元本割れリスク)があります。
 - 保険関係費用:ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.36%の割合で資産残高から毎日控除されます。
 - 運用関係費用:ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して年率0.42%(税抜年率0.40%)程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。
 - 年金管理費:年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。
 - 解約手数料:ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の解約、一部解約(特別払戻を除く)をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%~3%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。
- ※解約控除対象額は、解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

*この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用(「保険関係費用」「運用関係費用)」と「年金受取期間中の費用(「年金管理費)」」の合計額となります。また、特定のお客さまには「解約手数料」がかかります。

・当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

[引受保険会社] ハートフォード生命保険株式会社

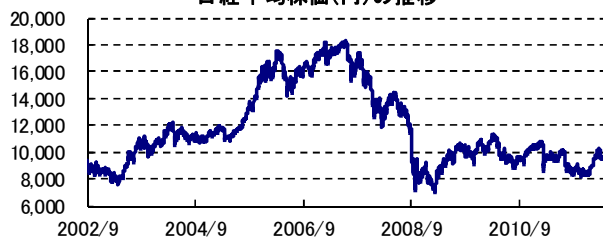
本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。

ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

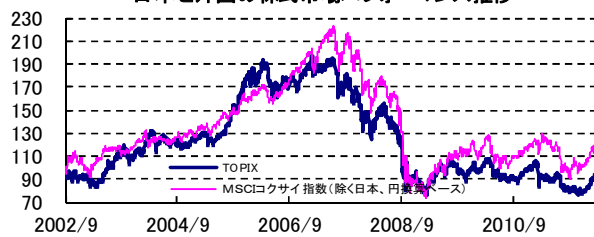
市場概況

代表的な指標の騰落率		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	▲ 5.58%	8.16%	5.92%	▲ 3.34%	7.85%
	TOPIX(東証株価指数)	▲ 5.86%	6.49%	5.26%	▲ 5.59%	▲ 4.00%
日本債券	NOMURA-BPI	0.52%	0.69%	1.49%	3.07%	7.64%
外国株式	MSCIコクサイ指数(除く日本、円換算ベース)	▲ 1.80%	11.29%	8.23%	▲ 6.98%	24.00%
外国債券	シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	▲ 1.27%	6.95%	7.09%	1.16%	▲ 2.68%
外国為替	米ドル対円為替レート(仲値)	▲ 1.22%	6.30%	4.42%	▲ 1.08%	▲ 16.97%

日経平均株価(円)の推移

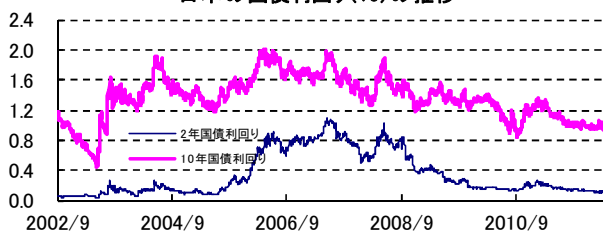


日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

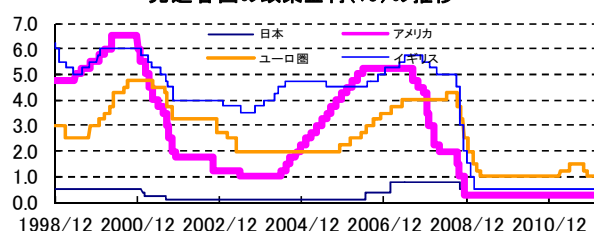


* 上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

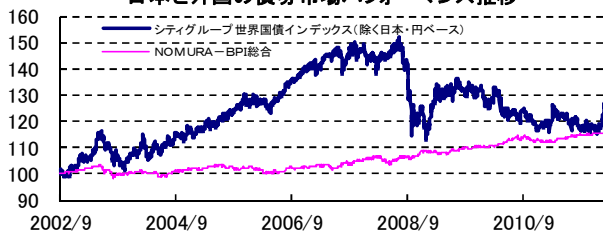
日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移

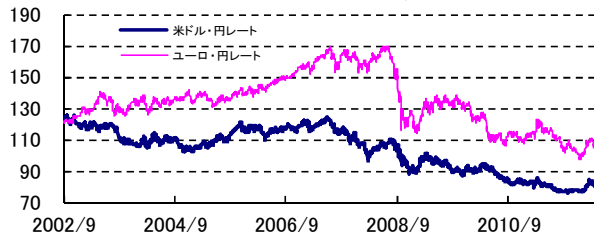


日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



* 上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村証券株式会社によって計算、公表されている、野村証券株式会社の知的財産です。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。シティグループ世界国債インデックスとは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した債券指数で、世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し、指数化したものです。

【日本株式市場】

4月の日経平均株価は、日本経済の先行きへの楽観的な見方が後退したことなどから、前半は大きく下落しました。その後も欧州債務問題への不安が広がったことによる投資家のリスク回避姿勢が強まったことを背景に下落基調が続き、前月末より563円安の9,520円で取引を終了しました。

【日本債券市場】

新発10年国債利回りは、序盤こそ上昇する局面も見られましたが、依然として欧州債務問題への不安が拭えていないことや市場が日銀による更なる金融緩和を期待していたことなどから、低下基調が続き、前月末比低下の0.8%台後半で月末をむかえました。

【外国株式市場】

NYダウは、雇用統計の結果などを受け軟調に推移しましたが、好調な企業業績に支えられ月末にかけて持ち直す動きがあり、前月末とほぼ同じ13,213ドルで取引を終了しました。独株式市場は、スペインを含む欧州各国の債務問題の再燃があり、前月末を下回り取引を終了しました。

【外国債券市場】

米10年国債利回りは、欧州債務問題だけではなく世界景気にも先行き不透明感が高まったことで月を通じて低下基調が続き、前月末を下回り月末をむかえました。独10年国債利回りは、欧州内での資金逃避先として選好される動きが強まり、前月末を下回り月末をむかえました。

【外国為替市場】

米ドルは、米国経済の先行きに対する楽観的な見方が後退したことなどから、円高基調が続き、前月末比円高の1ドル=81円台前半で月末をむかえました。ユーロは、欧州債務問題への不安感などから売られる動きが続き、前月末比円高の1ユーロ=107円台前半で月末をむかえました。

・当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
 ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
 ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
 したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定と主な投資対象の投資信託

特別勘定と主な投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				主な投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計 (百万円)
	株式		債券				投資信託	現預金 その他	
	日本	外国	日本	外国					
世界アセット01 ST	●	●	●	●	世界バランスVA1*	三井住友トラスト・アセット マネジメント株式会社	97.5%	2.5%	39,404

* 適格機関投資家専用設定される投資信託です。

投資信託の運用方針

主な投資対象の投資信託	運用方針
世界バランスVA1*	各資産ごとのマザーファンドへの投資を通じて、国内外の株式・債券へ分散投資します。各資産への投資は、基準ポートフォリオ(国内株式10%、国内債券(短期金融資産を含みます)15%、外国株式50%、外国債券25%)に基づいて行います。なお、実質的な組入外国株式資産については原則として為替ヘッジを行います。

* 適格機関投資家専用設定される投資信託です。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移



・当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界アセット01 ST

【特別勘定が投資する投資信託】
世界バランスVA1(適格機関投資家専用)
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
【投資助言会社】
三井住友信託銀行株式会社

主要投資対象

日本を含む世界の公社債や株式。主に「国内株式インデックス マザーファンド受益証券」、「国内債券インデックス マザーファンド受益証券」、「外国株式インデックス マザーファンド受益証券」および「外国債券インデックス マザーファンド受益証券」を通じて投資が行われます。

運用方針

各資産ごとのマザーファンドへの投資を通じて、国内外の株式・債券へ分散投資します。各資産への投資は、基準ポートフォリオ(国内株式10%、国内債券(短期金融資産を含みます)15%、外国株式50%、外国債券25%)に基づいて行います。なお、実質的な組入外国株式資産については原則として為替ヘッジを行います。

※平成24年4月1日より、特別勘定が投資する投資信託名・運用会社名・投資助言会社名が変更となりました。

旧投資信託名: すみしん 世界バランスVA1(適格機関投資家専用)、旧運用会社名: 住信アセットマネジメント株式会社、旧投資助言会社名: 住友信託銀行株式会社

平成24年4月27日現在

①当月末基準価額

基準価額	既払分配金(課税前)	純資産総額
9,960 円	0 円	38,464 百万円

②当ファンドの運用状況



(単位: %)

【騰落率】	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
当ファンド	-1.11	5.11	5.13	-0.19	23.08	-0.40
参考指数	-1.25	4.66	5.23	-1.29	20.38	-5.61
差	0.13	0.45	-0.10	1.10	2.70	5.21

【資産構成比と基準価額貢献度(月次)】

(単位: %)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	9.5	10.0	-0.5	-0.59
国内債券 (短期金融資産込)	16.5	15.0	1.5	0.08
外国株式	49.0	50.0	-1.0	-0.89
外国債券	25.0	25.0	0.0	-0.27
為替ヘッジ 評価損益その他	-	-	-	0.56
合計	100.0	100.0	-	-1.11

(注1) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。

(注2) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。

(注3) 「基準価額騰落貢献度」の「為替ヘッジ評価損益その他」は、外国為替ヘッジ取引にかかる評価損益、信託報酬、基本資産配分比差異効果及び資金流入要因他です。

※合併により、マザーファンド名称が変更となっております。旧マザーファンド名は「住信 国内株式インデックス マザーファンド」「住信 国内債券インデックス マザーファンド」「住信 外国株式インデックス マザーファンド」「住信 外国債券インデックス マザーファンド」です。

当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界アセット01 ST

【特別勘定が投資する投資信託】

世界バランスVA1(適格機関投資家専用)

【運用会社】

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

【投資助言会社】

三井住友信託銀行株式会社

主要投資対象

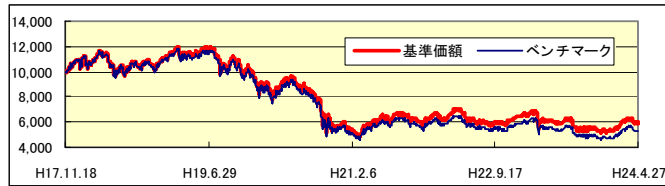
日本を含む世界の公社債や株式。主に「国内株式インデックス マザーファンド受益証券」、「国内債券インデックス マザーファンド受益証券」、「外国株式インデックス マザーファンド受益証券」および「外国債券インデックス マザーファンド受益証券」を通じて投資が行われます。

運用方針

各資産ごとのマザーファンドへの投資を通じて、国内外の株式・債券へ分散投資します。各資産への投資は、基準ポートフォリオ(国内株式10%、国内債券(短期金融資産を含みます)15%、外国株式50%、外国債券25%)に基づいて行います。なお、実質的な組入外国株式資産については原則として為替ヘッジを行います。

③資産毎(マザーファンド)の運用状況

【国内株式】



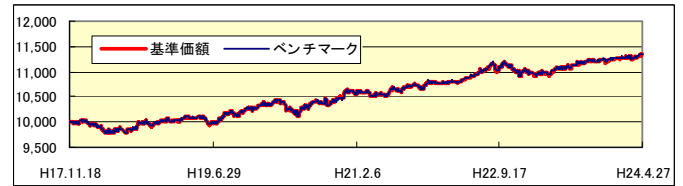
(単位: %)

<騰落率>	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-5.86	7.64	6.49	-3.42	2.31	-40.63
ベンチマーク	-5.86	6.49	5.26	-5.59	-4.00	-47.49
差	0.00	1.16	1.23	2.16	6.31	6.86

<市場の動き>

4月の国内株式相場は大幅に反落しました。スペイン国債の入札が不調であったことなどから欧州債務問題が改めて意識されたことに加え、外国為替相場が円高に振れたことなどから上旬の国内株式相場は大幅に下落しました。3月の米雇用統計が事前予想を大幅に下回ったことや中国の2012年1-3月期GDP成長率の鈍化などが嫌気されたほか、FOMC(米連邦公開市場委員会)や日銀の金融政策決定会合を控え様子見ムードが強まったことで、その後も月末にかけて株式相場は軟調な展開となりました。注目された日銀の金融政策決定会合では資産買入基金の5兆円増額などが発表されたものの、株式相場への影響は限定的でした。日経平均株価は前月末比▲562.67円の9,520.89円で月末を迎え、TOPIX(東証株価指数)の月間騰落率は▲5.86%となりました。

【国内債券】



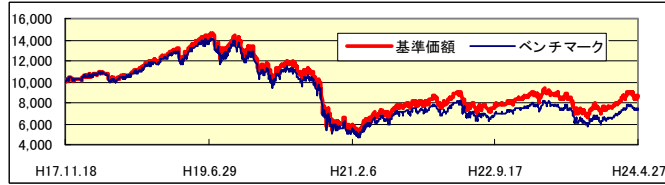
(単位: %)

<騰落率>	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	0.52	0.68	1.50	3.07	7.58	13.55
ベンチマーク	0.52	0.69	1.49	3.07	7.64	13.64
差	0.00	-0.01	0.01	0.00	-0.05	-0.09

<市場の動き>

国内債券相場は上昇(金利は低下)しました。上旬は10年国債入札結果を受けて10年国債の需給に対する警戒感が高まったことや、FRB(米連邦準備理事会)による追加金融緩和期待が後退し米国内債券相場が下落したことから国内債券は売られ、10年国債利回りは一時1.050%まで上昇しました。しかし、その後はスペイン国債入札の不調をきっかけとした欧州債務問題の再燃を受けてリスク回避姿勢が強まったことなどから、国内債券相場は反発に転じました。その後も日銀の金融政策決定会合で追加金融緩和策を打ち出すとの観測が出たことや、世界経済の先行き不透明感が強まったことから相場は一段と上昇し、10年国債利回りは約1年半ぶりの水準となる0.885%まで低下して終了しました。

【外国株式】



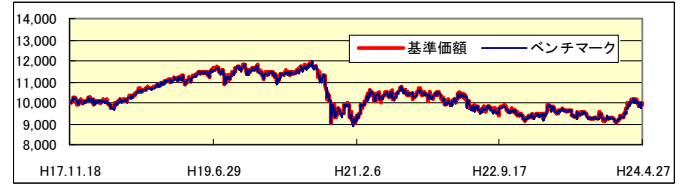
(単位: %)

<騰落率>	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-1.79	11.87	9.68	-5.17	32.92	-13.09
ベンチマーク	-2.36	10.73	10.52	-8.14	24.40	-25.56
差	0.57	1.15	-0.84	2.97	8.52	12.47

<市場の動き>

米国株式相場は、月中の下げを月末にかけて取り戻してほぼ横ばいとなりましたが、欧州株式相場は大きく下落しました。欧州では、スペインやイタリアの国債利回りが上昇基調となっており南欧諸国のソブリン債務危機が再燃した他、フランスやオランダの政局不安、ECB(欧州中央銀行)による追加的な資産購入の可能性が薄れたことなどが悪材料となりました。中国の景気減速懸念がくすぶっていることも嫌気されました。一方、米国でFRB(米連邦準備理事会)による追加金融緩和観測が根強いこと、2012年第1四半期の決算発表が概ね順調であること等は相場のサポート材料となりました。オーストラリアの株式相場は好調な3月の雇用統計、消費者物価上昇率が市場予想以下となったことから利下げ期待が一段と高まったこと等を受けて上昇しました。

【外国債券】



(単位: %)

<騰落率>	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-1.10	7.24	5.16	1.58	-3.25	-0.61
ベンチマーク	-1.27	6.95	7.09	1.16	-2.68	-0.66
差	0.17	0.28	-1.92	0.43	-0.57	0.05

<市場の動き>

米国10年国債利回りは、月を通して低下する展開となりました。4月の弱い雇用統計等を受けた景況感の悪化や欧州市場への警戒感から買への逃避的な動きがみられたことに加え、下旬にはFRBより追加金融緩和の可能性が示唆されたこともあり、再び2.0%を下回り1.9%台前半へ低下して月を終えました。また、ドイツ10年国債利回り買への逃避的な動きから低下基調となりました。4月のドイツIfo景況感指数等の経済指標は堅調であるものの、スペインを中心に財政悪化懸念が再燃したことに加え、主要国であるフランスやオランダの政局をめぐる不安感が強まったこともあり、下旬には一時過去最低となる1.6%台前半まで低下しました。結局1.6%台後半で月を終えました。為替市場では、リスク回避傾向の強まりから円が主要通貨に対して買われる展開となりました。米国で予想を下回る経済指標の内容から景気回復期待が後退したことや、欧州で重債務国に対する懸念や政局不安が強まったことを受けて、米ドル/円相場は80円台前半まで、ユーロ/円相場は104円台前半まで下落しました。しかし月半ば以降は日銀が追加金融緩和に踏み切るとの見方から円がやや売られ、結局、米ドル/円相場は81円台前半で、ユーロ/円相場は107円台前半で月を終えました。

<各マザーファンドのベンチマーク(グラフは世界バランスVA1の当初設定日を10,000として指数化し、設定日から基準日までを表示。)>

国内株式: 東証株価指数(TOPIX) 外国株式: MSCIコクサイ・インデックス(除く日本、円ベース)
国内債券: NOMURA-BPI 総合 外国債券: シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

- ・当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約除保が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。